

第3回西谷地区学校づくり検討委員会  
会議概要

開催日時	令和6年(2024年)3月4日(月) 15:40~17:30
開催場所	西谷小学校2階 多目的室
出席者	【委員】11名 【教育委員会事務局】3名
次第・議事	1開会 2議題 (1) ロードマップ(案)について (2) グループワーク「西谷の教育がこうなってほしい」(3) その他 3報告 (1) 小中一貫校についての勉強会 (2) 大津市葛川小中学校の訪問・視察 4閉会
会議の主な結果	この委員会の方向性は、小規模で地域を活かした特色ある教育のできる学校として残したいこと、学区外からも通ってもらえるようにして児童生徒数を増やしたいこと、の二点を合意した。今後の委員会では小規模特認校制度について検討を進めることとする。
会議録(要旨)	
事務局	<p>【1開会】 (委員長挨拶)</p> <p>【2議題】 議題(1)</p> <p>「西谷地区学校づくり検討委員会のロードマップ(案)について」事務局より説明させてもらう。1回目の検討委員会でも説明したが、2024年度中に本検討委員会で出た意見を取りまとめ、2025年度以降に取りまとめたものに基づき、取り組んでいけたらと考えている。その2024年度のスケジュール感の概要を示したものが、別紙のロードマップになる。これはあくまで案で確定した内容ではないため、会を進めていくにあたり時点修正をする場合もある。それでは、ロードマップ(案)の内容について説明する。2ヶ月に1回ぐらいの頻度で、本検討委員会を開催し、2025年3月の会議で市計画への意見書を完成させ、会の中間となる8月頃に保護者・地域に向けての中間報告会をできたらと考えている。「プロセス」と「要点」については、これまでの検討委員会で協議したことと、今後の検討委員会で確認していくことを記載している。「他活動」は、学校の行事や地域の取組を記載している。そして、今回、3回目となる検討委員会では、「ロードマップ」と「方向性の集約」と記載している。ロードマップは、今説明しているもので、「方向性の集約」は、2024年度になると、役職の交代等で本検討委員会のメンバーが変わる可能性もあるので、今年度中に議論の方向性を決定し、5月からは新メンバーで具体的な議論に進められたらと考えている。「方向性の集約」については、次の議題で各委員から意見を集約できたらと思っている。事務局からの説明は以上。</p>
委員長	事務局からロードマップについて説明があったが、これについて皆さんから意見をもらって、中身について了解を得られればこの方向で行きたいと思う。

副委員長	グループワークを行った後で、またロードマップの意見をもらうのもいいのかもしれない。
委員長	<p>では、提示されたロードマップで一応進めていくが、今日のグループ討議の結果を受けて修正したり、また会議ごとに意見があれば修正したりするというので、ご了解いただくのであれば、これで承認をいただくということでよろしいか。特にないようなら、このロードマップに沿って進めていきたいと思う。</p> <p><u>議題（２）</u></p> <p>それではグループワークの進め方について事務局より説明を頂きたいと思う。</p>
事務局	<p>グループワークのテーマは、「西谷の教育がこうなってほしい」というもの。いままで２回議論してきたが、具体的な方向性の認識合わせをしたいということで、今回このテーマを選んだ。また、事務局として会議で意見を挙げる方に偏りがあると思っていたため、本日はグループワークで個人個人がたくさん意見を出し合って、最後集約出来たらと考えている。配布している資料の「西谷の教育がこうなってほしい」という欄に意見を書いて、発表していただければと思う。実施方法は、グループでの意見交換を３０分程度、その後各班代表者から発表を３分、最後は全体での集約ということで、最終的な意見をまとめようと思っている。何か質問等あるか。</p>
副委員長	役割分担として、各グループに発表者と記録者をつけるのはどうか。
事務局	<p>では、各班で発表者と記録者を決めて始めてください。</p> <p>～グループワーク～</p>
副委員長	では１班から発表をお願いします。
委員	<p>１班では少人数の良さが出せる学校を作っていくという話が出た。また、考えていくべきこととして、保護者やおじいちゃん、おばあちゃんが関わりすぎていて、子どもに何かをさせるまでに、つつい口を出してしまう。子どもたちに失敗の経験をさせるという意見が出た。地域としても保護者としても見直していかないといけない点。</p> <p>あと、西谷をよく知る教育をもっとさせるべき。私は田んぼの中で走り回るとか凧揚げをした思い出があるが、今の西谷の子たちは、そういうことを街の子より知らないと思う。西谷を知るためには何がいいのかということで、数年前まで運動会の日には朝早くから各地区の方が軽トラックにテントを積んで、運動場に来てテントを張って応援に来ていた。そういうのが今は無くなっているので、もう一度復活させて、自分の地区に子どもが居なくてもテントを張って、お弁当を持って、よその地区の子を応援する、そういうことも大事ではないかなと思っている。</p>

	<p>小中一貫特認校など、今後どんな形の学校にしていくのかということについては、とにかく小規模の良さを前面に出せる西谷であってほしいという風に思う。また、もっと地域の人と一緒にになって、先生方と話し合いをする、そういう場をもっと作っていった方がいいと思う。なかなか現役のPTAのお母さん方、お父さん方がこういう場に来ていない。そういう方も一緒にになって話し合いをして、この学校をどうしていくのかということをお話していくことが第一歩だと思うので、話し合いの場が年に数回持てればなということも話に出てきた。</p>
事務局	<p>続きまして、2班お願いします。</p>
委員	<p>たくさんの意見が出たが、まとめると、小規模特認校で児童数を増やして特色ある教育、子ども主導の取組、失敗から学ぶ達成感、自己有用感を得る。それから西谷の食育については、枝豆、太ネギ、ダリアなどの特産品を育てることで子どもたちが自分たちで考え、自分たちで学ぶような、そういう取組ができる。</p> <p>あとは、伝統行事について、学校で各地区の交流があるといいということで、各地区から祭りのことについて発表して、その地区ではない子もこの祭りに興味があるとか、子ども同士での発表の場があると伝統行事が継承されていくという意見があった。</p> <p>それから他の学校との交流があったらいいと思う。それはZOOMの活用とか、お互いに学校同士で生徒が行き来しあうことで試合ができるとか、コミュニケーションを増やす、経験不足を補う方法が取ればいいと思う。</p> <p>また、人数が少ないと男女比の差が大きくなるということで、そこについても色々意見が出た。例えば、自然学校で泊まる時の部屋が、男子が4人で女子が1人だった時に、男子は全員同じ部屋だけど、女子は先生と泊まることになるのかということで、そうなったときに子ども同士の楽しい部屋の中でのコミュニケーションとかも難しいのかなど、男女比の偏りというのは教育の面でいくつか工夫が必要。西谷小は複式になっているが、複式であれば、男女比の差は軽減される。南部には過密の学校があるので、西谷の学区を取り払って南部からも西谷に来たいという子が来られるようになったらいいのではという案もあった。小規模特認校は兵庫県下の9市町村で12校、三田市の母子の学校では全員送迎が条件。西谷も送迎の問題、個人の親御さんの負担になることが、なかなかネックだという話もあり、送迎の部分を何とか出来たら、来たいという人もいるのではないかという意見や、とりあえずこども園の子が西谷小に入りたいといった場合に小学校に入れるといいのではという意見もあった。それから、南あわじ市では、学校として学校の魅力をPRするような授業をしているということで、小規模特認校でも工夫があるようなので、西谷でできること、地元のことを好きになってもらいたいというそんな取組があればいいのではという意見もあった。以上です。</p>
事務局	<p>続きまして、3班お願いします。</p>

<p>委員</p>	<p>まず人数について、15人～20人ぐらいが多すぎず少なすぎず、切磋琢磨できるのではないかという意見があった。では、この15人～20人をどう持ってくるかだが、いろんな方法がある中で、私は特認校はどうかというお話をさせてもらったが、最終的に帰着するのが交通の便になる。市全体としてこの問題を考えていただく中で、交通の便の確保の工夫など必要かと思う。山村留学などの案も出て、行政や地域と連携しながら、そういう風な工夫も可能ではないかという話もあった。</p> <p>それと、放課後学習について、ボランティアや、大学生、そういう経験のある大人の方などに協力していただく中で、確かな基礎学力を育むということもできるのではないかなど。</p> <p>豊かな心の部分で言うと、西谷は昔、小学校でお泊りみたいなのがあったという話題が出た。先生の働き方改革とか、いろんなことがあって見直されて無くなっていったのかもしれないが、西谷だからこそ残せるようなこととか、小回りが利いて出来るようなことが、地域の人に協力していただく中で出来るかもしれない。西谷の自然の家についても、老朽化してきているところもあるが、例えば日帰りで使うなど、遠くに行かなくても近くにある施設や題材を活用して、西谷ならではの教育をしていく中で、子どもたちの心も育んでいけるのではないかなという話もした。</p> <p>それと歩くこと。中学生になったら、なぜか車で送ってきてもらう。遊びに行くにしても距離が遠いので簡単には遊びに行けない。そういう部分は、西谷の子どもたちはかわいそうじゃないかなという話があったが、でも歩いて自分の足で行くという経験も大事じゃないかなというようなことが出ていた。限られた地域の中だけで過ごしていると、大きな世界に出たときに、どうやって友達作りをすればいいのかが分からず、地域を出たときのギャップに戸惑いを感じるという話もあったので、そういう意味でも子どもたちを切磋琢磨させる、程よい人数で学校が運営できるということは大事じゃないかなと思った。</p> <p>先ほどの話と重なる部分もあるが、確かな学力については、他校との交流や、家庭との今以上の連携が思う。豊かな心は、地域と協力しながら、地域の施設や人材を使っていろんな取組を進める中で心も育んでいく。例えば、QUという調査を実施して分析しながらより良い集団にしていく。それと、担任との面談、他愛もない話ができるような時間を作る。</p> <p>それから健やかな体で言うと、園・小・中、西谷の特徴であるふれあい運動会、先ほどテントの話も出ていたが、何か充実させていけるような、よりいいものにも出来ないかという工夫はあるかと。それと、過去にマラソン大会のようなことをしていたと聞いた。街の中を走るのは危ないが、西谷だからこそ出来るようなことかもしれない。そういう周りの環境や園小中の連携という特徴も生かしたい。いつも言っているが、教育委員会だけではなく、市長部局が必死になってほしいなと思う。同じ税金を払っているので、南部の方にはいろんなことしているが、やはり西谷にも投資を子どもたちに向けてしていただけたらありがたいかなと思う。教育委員会の皆さんはじめ、よろしく願います。</p>
<p>委員</p>	<p>1つだけ言い忘れていた。昔、園・小・中手引書というものがあつたと聞いたが、</p>

	今はどうなのか。
委員	個人的には持っている。
委員	中学校はある。
委員	そういうことも復活できればなと思う。
グループワーク参加者	大人も参加できるマラソン大会とかがあるといい。
委員	マラソン大会は、以前中学校スタートで下佐曽利まで行っていた。
グループワーク参加者	いまは県道の車が危ない。
委員	昔は駐在さんに言って止めてもらおうって。昔は西谷で宝塚市のマラソン大会があった。
副委員長	では、各班の発表が終了した。
事務局	本日いろんな意見がたくさん出たので、教育委員会でも整理して、皆さんからの意見として改めてみさせてもらう。各班で言われていたとおり、これから西谷の教育を考えるにあたっては、学校、教育委員会だけではなく、地域や保護者、それぞれの役割を出していった上で、今後の西谷の学校づくりというのを検討していかないといけないと改めて思った。
副委員長	今のところ集約すると、西谷のよさや少人数のよさなどの特化した強みと、小規模特認校で学区外にも開いてやっていくというのが、おおよその合意ということで特に異論はないか。  ～異議なし～
事務局	小規模特認校などの具体的なテーマとか、今後検討していくにあたって、今日の意見を参考に決めていきたいと思う。今日の発表内容は事務局で預かって、まとめたものを皆さんにメールで報告するので、ご確認いただけたらと思う。
委員長	皆さんのグループから発表された意見を集約することで、委員会として方向性をだして討論していくことが大事だと思っている。今日の討議で出た、小規模であってもその魅力が出せるような特色ある学校として残ってほしいという意見が、討論していくベースであるという確認をさせてほしい。それが無いと次回また振り出しに戻ったり、今日参加していない委員さんが出てきたときに、共通理解を

<p>委員長</p>	<p>してもらわないと次のステップに入っていけないと思う。今日は委員でない方も参加して、意見を出してもらった。そういうことも非常に大事だと思っている。皆さんの意見を集約して進めていかないと上手くいかないと思っているので、それは理解をいただきたい。本当に魅力のある学校づくりが出来るように、今おられるお母さん、お父さん達の意見が非常に大事だと思っている。その人達が本当にこういう風に進んで行ってほしいと思っていることを言うてもらうことで、地域も応援していただける道が開けていくので、是非遠慮しないで言うてほしい。今現在のお父さん、お母さんの意見を重視して進めて、未来につながる学校づくりをしていきたいと思っている。</p> <p><b>【3 報告】</b></p> <p>では、報告事項に移る。報告事項は2つあって、小中一貫校についての勉強会と、大津市の葛川小中学校訪問・視察の件について、副委員長より報告をお願いする。</p>
<p>副委員長</p>	<p>まず、小中一貫校制度についての勉強会を行った。先生が特におっしゃっていたのは、学校の統廃合・小中一貫制度は、は、2014年の総務省の公共施設等総合管理計画からスタートしているので、教育理論からではないということ。子どもにとっていいみたいな論調で進められているが、例えば床下面積がどれぐらいとか、そういう話から始まっているので、ちょっとそこは要注意だということだった。</p> <p>また、大規模校の過密問題の方がよっぽど問題で、小規模校の統合ばかり言っているところは、国としてきちんと考えるべき。宝塚市は、多くの学校が70年代に耐震化済みをしていて、同じ時期に建設しているので、建替え等が重なることが一番今回問題になっているのではないかと。公共施設等管理計画のいろんなメリットを活用しようとしていると思うが、子どもにとっていいのかという議論をしっかりしないと危ない。宝塚市は2016年の小中学校適正規模配置における基本方針の中で、保護者、地域、行政が連携しながら具体的方策を検討して、協働による教育環境整備に努めるとはっきり記載をしており、これは非常に良心的だと。こういうことを記載せず、次の4月から学校廃校しますとトップダウンで言っている自治体も全国でいっぱいある。ただ問題は、2020年から始まっている教育環境審議会は、教育行政についての専門家がない。だから小中一貫校制度を答申で進めているが、他の自治体の焼き写しというか、古い理論を持ち出しているの、そこはちょっと心配だなと。それと小中一貫制度の教育効果の根拠はそもそも文科省も全然データを出していない。だから効果があるみたいに押ししているけど、そんなに強く言うていいのか。そこはもうちょっと勉強した方がいい。</p> <p>それと、西谷地区学校づくり検討委員会にも助言をくれた。まず、どういう教育をしたいのか、地域でしっかり話し合ってくださいと。あと検討委員会の回数が少ない、2024年中に取りまとめをすれば2ヶ月に一度では不足。教育委員会の事情もあると思うが、例えば作業部会を作って、検討委員会と検討委員会の合間の1ヶ月に集まれる人で集まって、次の委員会までに出来ることを進めていく。それでメンバーに専門家や学識経験者、コーディネーターを入れたらどうかと。あと、</p>

	<p>検討委員会の人数があまり多くないようだ、もっとどんどんオープンな場でアンケートの実施や意見を聞く機会が必要。それで、検討委員会として視察や専門家の意見を皆で聞きませんか。</p> <p>あと通学方法等の問題も積極的に話していただきたいという助言をもらった。また、独自教科について、ふるさと科とかについてもしっかり議論をしてはどうかということだった。京都府福知山市の三和学園は非常に地域が似ているのでモデルケースになるし、見学に一緒に行ってはどうかという助言をいただいた。</p> <p>小中一貫校の問題点については、5・6・7年生に集中する課題、9年間真っ平になってしまうと逆に5・6・7年生のメンタルが非常に落ちたりするリスクがあるというデータが出ている。小規模校には非常に子どもの精神的健康度として優位な傾向が出ているということ。</p> <p>では、次、小規模特認校の大津市葛川小中学校の視察について、ここは大津市全域、京都市左京区久多から受け入れている。スクールバスを持っていて、バスは町で買って運用費は市が出したりしている。複式学級はなく、人数も様々だが、ものすごい人気があって来年度はもう募集できないとか。でも少人数を特色にしている、深く丁寧に学びを、対話をしながら出来るような人数構成が重要なので、増やさないというお話だった。特別支援学級は知的のみ。先生達の配置についてはいろんな工夫があるようだった。この学校はアントレプレナーシップというのが特色になっている。僻地少人数教育を超えて、日本の令和型教育の最前線として頑張っていると、かなり気概を持って言っておられた。起業家精神と言っても、お金を稼いだり、地域を消費対象としたりとか、そういう起業家精神ではなくて、葛川地域を持続可能な地域にしていくという問いかけのもとに子どもたちが取り組んでいる。コンペに積極的に応募していて、文科省の賞をもらっていたり、いろんなところで賞をとって、市長表敬訪問や県庁に行ったりして、外にどんどんつながっている学校だった。中3の子どもたちが今回やった葛川小中学校水力発電所のプロジェクト、KCLプロジェクトも素晴らしかった。信州大学の伏木先生がとてもいいと教えてくれた。少人数の弱みを脱却する教師の意識改革とか、教え手の方も見え方が変わりますよということ、1回この先生をリモートでもいいので呼べたらいいなと思っている。長くなったが以上が発表となる。ありがとうございました。</p>
委員長	質問等あるか。
グループワーク参加者	葛川は、小中一貫校ではなくて、小学校1年生から小学校6年生、中学校1年生から中学校3年生という別の学校だけど、合同でやっているということか。校舎も別々なのか。
副委員長	校舎は別々だった。
グループワーク参加者	校長先生もそれぞれにいて。

副委員長	校長先生は1人。
グループワーク参加者	兼務なのか。
副委員長	はい。教頭先生はそれぞれにいる。僻地校という指定があるので、僻地校と少人数加配、いろんな加配でとにかく市費の先生を増やして、なんとか複式化を解消しているということだった。
グループワーク参加者	ありがとうございます。あと、小学校6年生は1人だけなのはどうするのか。
副委員長	小規模特認をスタートした時点での人数のばらつきがある。
グループワーク参加者	そこは複式にはしていないのか。
副委員長	はい。
グループワーク参加者	ありがとうございました。
委員長	特に他無いか。
副委員長	ご提案として、作業部会を作らせていただくというのはどうか。
委員長	ちょっと待ってほしい。今の報告、それから全体含めて何かあるか。特に無いなら、今副委員長の方からも提案のあった、作業部会について、教育委員会と数名の者での事前の打ち合わせでも話をして、まずそこで方針を出す。副委員長から専門委員を入れたりなどの案も出たが、それについても、ここで決めて作業部会を作るという訳にはいかないの、教育委員会と相談をする。検討事項として、次回以降報告にするという形にしたいと思う。それから、次回の日程を決めていきたいと思う。事務局から願います。
事務局	次回の日程について、本日参加者が多いわけではないので、改めてメールで連絡する方がいいか。ここで決めてしまってもいいが、事務局側も5月の日程が全く出ていない。複数候補日をもうけて、皆さんにお聞きする。
委員	大体の日付は。
事務局	5月の中旬くらいで。
副委員長	3つぐらい挙げといたらどうか。



事務局	では皆さん5月の中旬で行きやすい曜日など教えてほしい。
委員長	この時期は避けてほしいということがあれば言うておいてもらえたら。
事務局	今日が月曜日でこの時間でさせてもらったので、13日とか20日とかで同じ時間とかはどうか。
委員長	13日はちょっと予定が入っている。
事務局	そしたら、13日外して3つぐらい候補日挙げさせてもらって、連絡させてもらう。
委員長	では20日をベースに、その前後とか2、3日挙げてもらって。
委員	万が一役員が変わっている場合、PTCA とかは変わっていると思うが。
委員長	全員来てもらうつもりでいる。最初に言ったが、出来るだけ意見を聞かせてもらえたらと思っている。流れが途切れるので、交代されても両方来ていただいた方がいいという話をしたと思う。
事務局	では、20日前後で複数候補日をメールで送って、一番参加者が多い日に開催させていただく。では、これにて本日の議題全て終わったので、会議は終了とさせていただきます。本日は長時間ありがとうございました。